

# 行基菩薩生誕1350年

今年、奈良時代の高僧、行基菩薩の生誕1350年に当たる。行基菩薩は、国家によって仏教が統制されていた時代にあつて、布教を通じて社会基盤の整備と民衆救済に尽くし、民間に出て「菩薩道」を実践した。存命中に「菩薩」と尊称されたのも、常に民衆の中で菩薩道を実践したからにはかならない。僧侶としての活動は次第に人々の支持を集め、彼らは「知識」と呼ばれる信者集団を形成、行基菩薩が幾多の事業を進める大きな原動力となった。生誕1350年に当たり、論考や行基菩薩ゆかりの寺院紹介を通じ、社会基盤の整備や福祉といった今日の宗教者にも通じる役割を果たした行基菩薩の足跡と業績を再考する。

奈良市・近鉄奈良駅前の行基像。遺徳をたたえるように、献花が絶えることなく供えられる



## 寄稿

### 行基の生涯・事業・教えと 行基を敬愛した人々

大阪教育大名誉教授・堺行基の会会長

吉田 靖雄

#### 《行基の仕事》

##### ① 行基の生涯

のちの和泉国大鳥郡蜂田郷(大阪府堺市西区家原寺町などの一帯)の豪族蜂田氏に生まれた行基(668〜749)は、15歳で出家し沙弥になり、24歳で授戒し比丘になつた。その後、山林修行と飛鳥寺での経典研究に励み、仏教者としての生き方を長いあいだ模索していたが、民間布教・民衆利益をめざすべきと決心がついたのは716年、49歳のときであつた。

当時の僧尼は衣食住を国家に保証された公的身分に属し、国家に服従奉仕する立場にあり、民間布教は期待されていなかったから、民間布教に進むことは仏教界の主流からはすれ、国家の処罰をこうむる恐れもあつた。しかし行基は82歳で亡くなるまで畿内全域(山城・大和・摂津・河内・和泉の国)で精力的に民間での活動を続けた。行基は民衆と僧尼に敬愛され生存中に菩薩と尊称された。行基の成した社会的事業は行基一人のものではなく、行基を中心とする信者集団の活動そのものであつた。たとえば大阪府堺市中区土塔町の大野寺は行基集団が727年に建設を始めた寺院であつた。附属の塔は二辺50余り、高さ8層を超える十三重のピラミッド状で、土砂で造成し表面に瓦を葺いた特異な塔であつた。ここから出土した瓦片には僧尼名や在家者の氏名が刻まれ、彼らが行基集団の構成員であり、大野寺建設に際し財物・労力を寄進した人々であつたことを示している。刻まれた名前の総数は二千を超え、行基集団の大きさを物語っている。

行基集団の巨大さと行動力は為政者にとっては徒党の

脅威でもあつたから、717年元正天皇は「小僧(つまらぬ僧)行基ならびに弟子ら」の行動は戒律違反・法令違反であると糾弾する事態になつた。

##### ② 行基の社会的事業

行基集団への弾圧は聖武天皇の時代に緩和されるようになった。行基集団の社会的事業は民衆生活の安定と向上を目指したもので政治性がなく分かつたからであつた。行基の社会的事業の数々は、741年に行基集団が政府の求めに応じて提出した文書(『行基年譜』引用の「天平十三年記」)に明記されている。

この記録によると、建設した事業は灌漑用ため池15カ所、灌漑用水路網6カ所、堤樋3カ所、堀川4カ所、橋6カ所、直道1カ所、船息2カ所、布施屋9カ所とあり、その分布は畿内5カ国に及んでいる。これらの中には国家的な事業といつてもよい大規模なものがあつた。驚異的な実行力であつたといわねばならない。

この他、行基は民衆のために四十九院とよばれる寺院を建設した。四十九院の大半は現存しないが、大修惠院高倉寺(堺市南区)、大野寺(同市中区)、隆池院久米田寺(大阪府岸和田市)、久修園院(大阪府枚方市)、大福院御津寺(大阪市)、喜光寺(奈良市)、昆陽院院尾陽寺(兵庫県伊丹市)、発菩提院泉橋寺(京都府木津川市)などは1200余年の法灯をともしている。これら諸院の檀家は、現在では行基との関係を意識していないかもしれないが、法灯継続という事業に参加していることは事実であり、彼らは行基の弟子筋にあたる人々だといえる。

##### ③ 行基の教え―五戒順守・勤労による富の獲得

行基は著作を著さなかつたから彼の教えを知りえないが、しかし多くの事業を残したから、そこから彼の教えをうかがい知ることができる。前出の堺市・大野寺土塔出土の瓦銘に「優婆塞」「広依夷」がある。行基集団内に、在家で三宝(仏・法・僧)に帰依し五戒順守を誓約した優婆塞・優婆夷がいたことを示している。730(天平2)年9月、大野寺に近い日下部郷(堺市草部の一帯)辺の709人が書写した「瑜伽師地論」奥書に見えるリーダー鳥郡長官の優婆塞練信も、行基の弟子であつたと考えられる。優婆塞・優婆夷の守る五戒とは不殺生・不偷盗・不邪淫・不妄語・不飲酒の五種であり、一般社会の倫理とも合致していた。

行基集団の大部分は一般民衆であり、行基は彼らに三帰依と五戒の順守を勧めたと考えられる。



よしだ やすお氏=1939年、中国北京市生まれ。東京教育大学院文学研究科修士課程(日本史学)修了。大阪府立高校教諭、大阪教育大教育学部講師、助教授、教授を経て名誉教授。著書に『行基と律令国家』『日本古代の菩薩と民衆』『行基一文殊師利菩薩の反化なり』など。「堺行基の会」の設立に関わり、2005年から会長。

〔13面から続く〕

灌漑用ため池15カ所の建設では荒れ地に灌漑をほどこして農地にすることに成功した。農民は灌漑により農地の拡大と収穫量の増大に成功し、より生活を安定させ向上させることができた。ここには勤労による富の獲得という教えがよく表れている。

富の獲得という教えは船息2カ所の建設にも表れている。船息は船舶を停泊させる施設で波止場・船舶まりを意味する。大輪田船息は神戸市兵庫区の和神田に建設され、船息の維持管理のために船息院も建設された。また神前船息は大阪府貝塚市の近木川の川口に建設された。和神田船息は瀬戸内海を上下する公私の船舶の停泊に適した土地で、それら船舶は難波京・平城京の役所へ貢納する物品を積載する公船であり、また両京の市場で売買するための商品も積載する私船であった。船息と船息院を建設した行基集団は、波止場に停泊した船々や船員と交易を行い、利益を収めることができた。また船息で接触した船員―彼らは同時に職人・商人・運送業者でもあった―を行基集団に参加させることができた。

当時の国家は農業を重視し手工業・商業を軽視したが、船息の建設から行基の考えを推し量ると、農工商いずれの生業にせよ軽んじることなく五戒を守りながら勤労による富の獲得を積極的に評価する教えがあったといえる。

《行基を敬愛した人々》

日本仏教史上において行基を敬愛した人々が多い。最澄(767-822)、空海(774-835)、重源(1121-1206)、叡尊(1201-90)、忍性(1217-1303)、公慶(1648-1705)らは、行基の民衆利益の事業の数々を継承し実行した人々であった。このほかに無名の多くの行基讃仰者がいた。たと



大阪市南部、松原市との境界付近(大阪市精密住宅地図)1982年、吉田地図より。行基菩薩ゆかりの地が点在する。A:行基池跡 B:行基墓跡 C:阿麻美許曾神社 D:行基大橋

えば堺市の数カ所の共同墓地に石碑があり、そこには「行基大菩薩」「二千年忌」「延享五年二月二日」に類する銘文があり、1748(延享5)年2月2日に行基二千年忌が行われたことを示している。行基二千年忌石碑は畿内各地に存在することが確認されている。石碑の中には「○○寺三昧聖中」と建立者を記す例があり、建立者を記さない石碑も各墓地の三昧聖たちが建立したものと認められる。

三昧聖は中世・近世に墓地を管理し埋葬火葬をつかさどった下級宗教者である。彼等の伝承によると、行基は聖武天皇の許可を得て共同墓地を作り、弟子である彼らに火葬の技術・埋葬儀礼を教えたという。近世畿内の三昧聖たちは、前出公慶の開いた東大寺竜松院の支配下にあった。公慶は1684年幕府の許可を得て大仏再興の勸進を始めたが、その際竜松院は畿内の三昧聖たちを勸進組織に組み入れ使役した。三昧聖らは勸進役を勤めることにより、行基弟子の末裔であること、国大寺東大寺の管理下にあることを自覚し、自己の正当性を確認することができた。

大阪市東住吉区公園南矢田3丁目の矢田富田町墓地に、土地の人が「行基墓」と呼ぶ墓がある。墓地の入り口に新しい「行基菩薩之墓」と記す石碑が立つが、おろん行基の墓碑ではなく、行基二千年忌の1748年2月2日に「弥明寺三昧聖中」が立てた記念碑である。この墓地の西方約200メートルに行基池があったが1973年に埋め立てられ矢田小学校敷地になった。行基池は1802年の文書に見えている。行基池跡の南方600メートルに式内阿麻美許曾神社があり、1679年の「河内鑑名所記」に「天見山と云う社……行基居住の寺あり」と記す。この神宮寺は明治初期に廃絶したらしく、現在は1956年建立の「行基菩薩安住之地」石碑が神社入り口近くにある。

行基池跡と阿麻美許曾神社をつなぐ府道26号線上行基大橋がある。大和川にかかる長さ210メートルの連続合成桁橋で、1978年に大阪市建設局が設置した。この大和川は18世紀の付け替えによる川だから本来行基とは関係ない。しかし大橋を含む直径700メートルの圏内に「行基の墓」「行基池」「行基居住の寺」の伝承があったから、大阪市は地元伝承を重んじて新造の橋を行基大橋と名付けたのであろう。墓地の南隣、公園南矢田4丁目の「公園南郵便局」は1997年「東住吉行基橋局」に改称した。この地域は行基伝承・行基信仰が現在も進行し増幅している地域だといえる。

「堺行基の会」は1994年に市民の会として発足し、24年にわたり行基の顕彰に努めてきた。会員は行基さんのやさしき弟子のそのまたやさしき弟子くらいにあたるのだと自認している。

律宗 生馬山 竹林寺

〒630 0233 奈良県生駒市有里町2-1-11  
電話 0742 (33) 79000  
(唐招提寺)

住職 西山明彦



1998年に再興された本堂

「行基年譜」記載の「生馬山房」が起源と考えられている。行基菩薩が707(慶雲4)年に建てたとされ、ここで老母を亡くなるまで世話したという。749年に没した行基菩薩は遺言により生駒山東麓に葬られた。火葬骨を取めた銀製舍利瓶は、銅筒に入れられ、さらには八角石筒の中に納められた。この銅筒の外周には墓誌が刻まれ、その一部が国重要美術品「行基墓誌断片」として現存。また墓誌全文を書き写した「大僧上舍利瓶記」が伝わる。中世、唐招提寺僧の寂滅が行基菩薩から託宣を受け、舍利を発掘。竹林寺を中興した。竹林寺は明治初年に廃寺となったが、昭和初期から復興が始まり、1998(平成10)年に現本堂が落慶した。

法相宗 別格本山 清涼山 喜光寺

〒631 0642 奈良県奈良市菅原町50-8  
電話 0742 (45) 46300

住職 山田法胤

行基菩薩入寂の地



生誕1350年を祝う今年の行基會大祭

721(養老5)年、行基菩薩は寺史乙丸という人物からこの地を譲られて菅原寺を創建。東大寺大仏造立の勸進に奔走する最中の748年、行幸した聖武天皇が拝むと本尊阿弥陀如来から不思議な光が放たれ、天皇は大いに喜んだ。そのため喜光寺の名を授けられたという。「大僧上舍利瓶記」によると翌年2月2日、行基菩薩は喜光寺東南院で右脇を下にして息を引き取った。

高野山 宝宿山 高天寺橋本院

〒639 2336 奈良県高野町高天350  
電話 0745 (66) 2141

住職 前田良仁

大和葛城唯一の古像を伝える

718(養老2)年、葛城の高天山(金剛山)に登った行基菩薩は中腹の高天原を霊地と感じ庵を設けた。一心に念想すると光を放つ十一面観音が現れた。ますます修行に励む行基菩薩の姿に感動し、人々は高天山人と呼んで尊んだ。元正天皇の勅で高天寺を建て観音を彫って祀った。聖武天皇や孝謙天皇が祈願。鑑真和尚も住職を務めたという。中世には修験道当山派の大本寺として興隆。しかし、南朝を支援したため、北朝方に焼き討ちにされた。さらに明治の廃仏で壊滅し、子院橋本院だけが今に法灯を伝える。



元興寺文化財研究所の調査で発見された、今年修復が完了した行基菩薩像

真言宗 室生寺派 無量山 阿弥陀寺

〒963 8071 福島県郡山市富久山町久保田字久保田52  
電話 024 (922) 7275

住職 小田修史  
(大本山室生寺執事長)



戦禍や火災を乗り越え法灯を伝える阿弥陀寺

平安時代から室町時代にかけて現在地の東にあった行基菩薩ゆかりの寺、天台宗正覚寺が前身。安積の地は、南北朝時代に幾度か戦の舞台となった。正覚寺も戦禍を被り広大な堂塔伽藍をことごとく焼失したが、行基菩薩が刻んだ本尊・阿弥陀如来は僧侶の手によって地中深くに埋められ、難を免れたという。後に檀越今泉家によって同寺に遷座され、1574(天正2)年に真言宗の寺院として中興開山した。その後二度の火災に遭いながら、本尊と過去帳はそのたびに難を逃れてこんにちに至り、歴代住職によって法灯が伝えられている。

# 新西国第12番霊場 東光院 萩の寺

大阪府豊中市南桜塚1の12の7  
電話 06(6852)3002  
住職 村山廣甫

京都・便利堂が奉納した「萩の寺草創縁起絵図」。行基を中心に民衆火葬や薬師堂など草創の事跡を描く



新西国第12番霊場、曹洞宗東光院萩の寺(村山廣甫住職)は735(天平7)年、現在の大阪市北区中津で行基菩薩が開創した。旧地はかつて「浜の墓」と呼ばれる風葬の墓地だったが、その悲惨な光景に接した行基菩薩がわが国最初の火葬の法儀を民衆に伝授。供養のため薬師如来像(香薬師)を造って大施食会を修し、淀川に群生する萩を霊前に



村山住職は社会事業で民衆に尽くした「行基精神」で長年、自坊復興、地域貢献に尽力し、寺には宗旨宗派を問わず多くの参詣者が集う。「合力すれば群生の美となる萩の花は分かち合の精神、民衆と辛苦を共にして大事業を完遂した行基の心の象徴だ。仏教の原点、行基精神を受け継ぐ萩の寺の歴史と文化を今後も発信していく」と話す。

## 真言宗御室派大本山 天野山 金剛寺

〒586-0088 大阪府河内長野市天野町996  
電話 0721(52)2046  
座主 堀 智真

天平年間、聖武天皇の命で行基菩薩が開き、のち弘法大師空海が修行したと伝わる。平安時代末期、高野山で学んだ阿観上人が、後白河上皇とその妹の八条女院の篤い帰依を受けて中興。真如親王筆の弘法大師御影を迎え、御影堂などが寄進され、「女人高野」として栄えた。今年300年ぶりの大修復が終わり、伽藍が鮮やかによみがえった。



金剛寺本堂。今年、300年ぶりの伽藍大修復を終えた

行基菩薩の像などは伝わらないが、1594(文禄3)年の検地帳写によれば「行基院」という名の子院があったことが分かる。また薬師堂が中興以前の本堂ともいわれ、薬師信仰との関係が強い行基菩薩の足跡を想像させてくれる。

## 浄土宗 迎接山 法蔵寺

〒664-0861 兵庫県伊丹市中央2の6の16  
電話 072(772)2144  
住職 伊藤真宏

奈良時代に行基菩薩によって、現在の伊丹市昆陽に創建されたと伝わる。1522(大永2)年に鎮蓮社西譽上人(？)1572)が現在地に寺地を移転。2度、伽藍を焼失したが、1688(貞享5)年、第8世灌譽上人の時に本堂・庫裡などの伽藍が整備された。

建立から300年以上経った1994(平成6)年、老朽化が著しくなった伽藍の改築計画を策定したが、翌95年に発生した阪神・淡路大震災で被災したことで、全面的な整備事業となった。98年11月に、新築した本堂をはじめとする諸堂の落慶法要が厳修された。行基信仰を受け継ぐ同寺は、檀信徒の一丸となった取り組みにより、幾度の危機を乗り越え、今日に至っている。



1998年に落慶した本堂と整備された寺地

## 浄土宗 医王山 神願院 壽命寺

〒563-0059 大阪府池田市西本町2の20  
電話 072(751)4676  
住職 岡村卓生

阪神・淡路大震災を乗り越え2000年に再建された現在の壽命寺



行基菩薩を開山として奈良時代に開かれた。寺伝によると、呉服神社で信託を得た行基菩薩は、猪名川の川底に沈む薬師如来を救い出すとともに、薬師如来を守護するべく自ら十二神将を刻んだ。この薬師如来を本尊とし、聖武天皇の勅願を受け建てられたのが「神願寺」で、寿命



壽命寺に伝わる「当山開基行基菩薩僧正絵伝」(部分)

寺の前身に当たる。薬師如来は今も、秘仏として薬師堂に祀られる。南北朝時代から戦国時代には武家の信仰も集めた。足利義政によって再建された際には七堂伽藍を備えたといわれ、当時の境内を描いた絵図が現在に伝わる。このほか楠木正成奉納の軍記や兜、武田信玄奉納の八幡太郎義家像、「雨乞いの竜」像など、往時を偲ぼせる文化財が現存する。宗旨を浄土宗に改めたのは室町末期。1997年1月の阪神・淡路大震災では本堂全壊の大きな被害を受けたが、3年後の2000年に再建を果たし、行基菩薩から連綿と続く信仰の道場を確かに守り続けている。

## 妙見宗 能勢妙見山 本瀧寺

〒563-0132 大阪府豊能郡能勢町野間中7118  
電話 072(737)0028  
管長 野間秀昭

修験道僧侶・野間日照師が1926(大正15)年、奈良にあった天台宗修験道寺院「薫香院」を現在地に移転、「本瀧寺」と改めた。本堂「大空殿」は33年に落成。およそ1250年前、妙見山頂

に行基菩薩が霊所として建立した「爲楽山大空寺」にちなんで名付けられた。釈迦如来を本尊、妙見大菩薩と常富大菩薩を脇本尊として祀る。法嗣の野間秀泉師は46年、属していた天台宗の修験道大本山

能勢の本滝。正面に大鳥居があり、苔むした岩の上の青銅の竜の口から霊水が流れ落ちる



本堂「大空殿」



金峯山寺(当時)から独立し、妙見宗を創立した。以後、本瀧寺は妙見宗総本山となる。境内にある「能勢の本滝」は、行基菩薩が水行の場として開いたと伝えられ、江戸時代中期から庶民の間で盛んとなった能勢の妙見信仰に伴い、参詣修行する人でにぎわったという。天理教開祖の中山ミキ氏や本門佛立宗開導の長松日扇上人、将棋棋士の坂田三吉らも水行をしたことで知られる。

# “行基さん”に学ぶ

「行基に学ぶ関西再発見の会」発起人  
「行基さん大感謝祭」実行委員会会長

尾田栄章氏に聞く

奈良の宮大工を営む家に生まれ、小さな頃から行基さんには親しみがありました。ただ本格的に行基さんのことを考え始めたのは2002年の雑誌の対談でした。『天平の僧行基』の著者で歴史地理学者の千田稔・奈良県立図書館館長と話したのがきっかけで、河川や道路などのインフラ整備の業績に注目するようになりました。

畿内に寺院「四十九院」を行基さんが建てたと聞いて、すぐにピンと来ました。これは建設現場の飯場だと。つまり作業員の宿舎を兼ねた現地事務所です。どんなプロジェクトでもまず動き出すのは現場です。四十九院について『行基年譜』にはいずれも落慶の年ではなく、起工の年が書いてあります。最初は仮設の建物で良かったからです。必要に応じて増ししていったのでしよう。現在もそのようにして



おだ・ひであき氏=1941年福井県生まれ。奈良県育ち。京都大大学院修了。67年建設省入省。97年の河川法改正に河川局長として関わる。98年に退官。第3回世界水フォーラム事務局長など歴任。2013年から16年まで福島県の任期付職員。著書に『行基と長屋王の時代』など。寺社建築などを手掛ける尾田組(奈良市)会長。

## 民間の力を高める

去年、設立を呼び掛けた「行基に学ぶ関西再発見の会」でやりたいことの一つは、行基さんの実像をはっきりさせたいということ。インフラ整備は民衆のためといいますが、どんな思想的背景があったかについては学者によつて見解が異なります。行基さんに関する本格的な研究は80年くらいの蓄積があるが、どの説がどの程度妥当なのか、はっきりさせるための討論をしていない。今年10月20日に東大寺で開かれるシンポジウムでも議論の

進展を期待しています。大阪府狭山市の狭山池は1300年前前から今も現役で使われています。久米田池にしろ、千年以上にわたって使われているため池は他に世界のどこにあるでしょうか。そのような業績を知ってもらうためにも行基さんの活動の実態を学術的に明確にする必要があると思います。

「続日本紀」が記す伝記には四十九院を寺院ではなく「道場」と書いてある。簡易な建物しかなかったのでは朝廷は寺院だと認めなかったのでしょうか。朝廷は東大寺大仏造立にあたり、行基やその弟子を公認しましたが、「行基集団」を認めることはなかったようです。朝廷のダブルスタンダードがありました。それが分かって行基さんも朝廷の力を利用したのでしよう。

私の関心は日本社会の民間の力を高めたいというところにあります。現役時代、ダム撤去をめぐる、住民と自治体と電力会社の間を折衝したり、退職後に東日本大震災の被災地の福島県広野町で県の臨時職員として働いたりしてきた中でそのことを痛感してきました。

日本に必要なのは行政を動かすことのできるNGO(非政府組織)です。ボランティアやNPO(非営利組織)ではダメ。国や自治体から呼び掛けでも人々を動かすのは難しい。行政側としても民意を受けて動くので、そのような働き掛けがないと動きづらい面があります。

「無私」で奉仕する姿は美しい。だがNGOは必ずしも無私である必要はありません。目的のためにたまたかに動くべきです。政府と同等の立場をもって、時に対立し、時にはその力を利用して。ずぶとくてよいのです。例えば国連にはいるんならNGOが入



行基菩薩が建設に携わったとされる大阪府狭山市の狭山池。日本最古のダム形式のため池といわれる

り込み、それぞれの団体が利害を掛けて駆け引きしています。江戸時代には(多摩から江戸の市街地に飲み水を供給する)玉川上水の建設に尽くした玉川兄弟や仙台野の新田開発・河川改修に奔走した川村孫兵衛がいました。そういう民間の力を復活させないといけないと思っています。

戦後、戦時体制の一端を担ったという事で隣組が解体されたこともあり、住民同士の横のつながりが薄くなつていきました。そして政府の働きを補完するのは企業がほとんど。しかし、利益を求め企業は絶対にNGOにはなりえない。その隙間をどう埋めるかが日本の重大な課題です。

## リードするのは民意

行基集団もそのようなものだったの

では。そこで政府側のパートナーとして選んだのが長屋王だったのではないかとというのが私の見解です。そうでなければ平城京の中心の二等地に喜光寺(行基の没地。現・法相宗別格本山)を建てられたはずがありません。

行基自身は畿内から出ていないと言われていますが、全国に伝承が残るのは弟子たちが回ったからではないか。岩手県から宮崎県まで各地に伝承寺院があります。同じ10月20日に奈良公園で開く「行基さん大感謝祭」は、天平2(730)年に行基が開き、朝廷から非難された大集會を再現するというアイデアから始まりました。この集會は、弟子を各地に派遣するための集會だったのでと想像します。行基が直接関わったと明記されていなくても、同時期に各地で河川

改修などが行われ始めたことが「続日本紀」などから分かります。

このような活動はお坊さんだったからこそできた。科学者であり、思想家であり、技術者でありました。それが現代でよみがえるとどうなるか、非常に期待しています。

国や自治体ができることは限られています。予算を集中投下することくらいです。どこに投資するのかをリードするのは住民の意思です。よく行政の責任が問われますが、自分たちが「こうしたい」というビジョンを持つことが出発点にないといけません。日本人は給料に縛られた仕事とは別の生き方を取り戻さないといいません。(談)